

イチゴ炭そ病に対する底面給水法による 伝染抑制効果と潜在感染株の簡易診断法

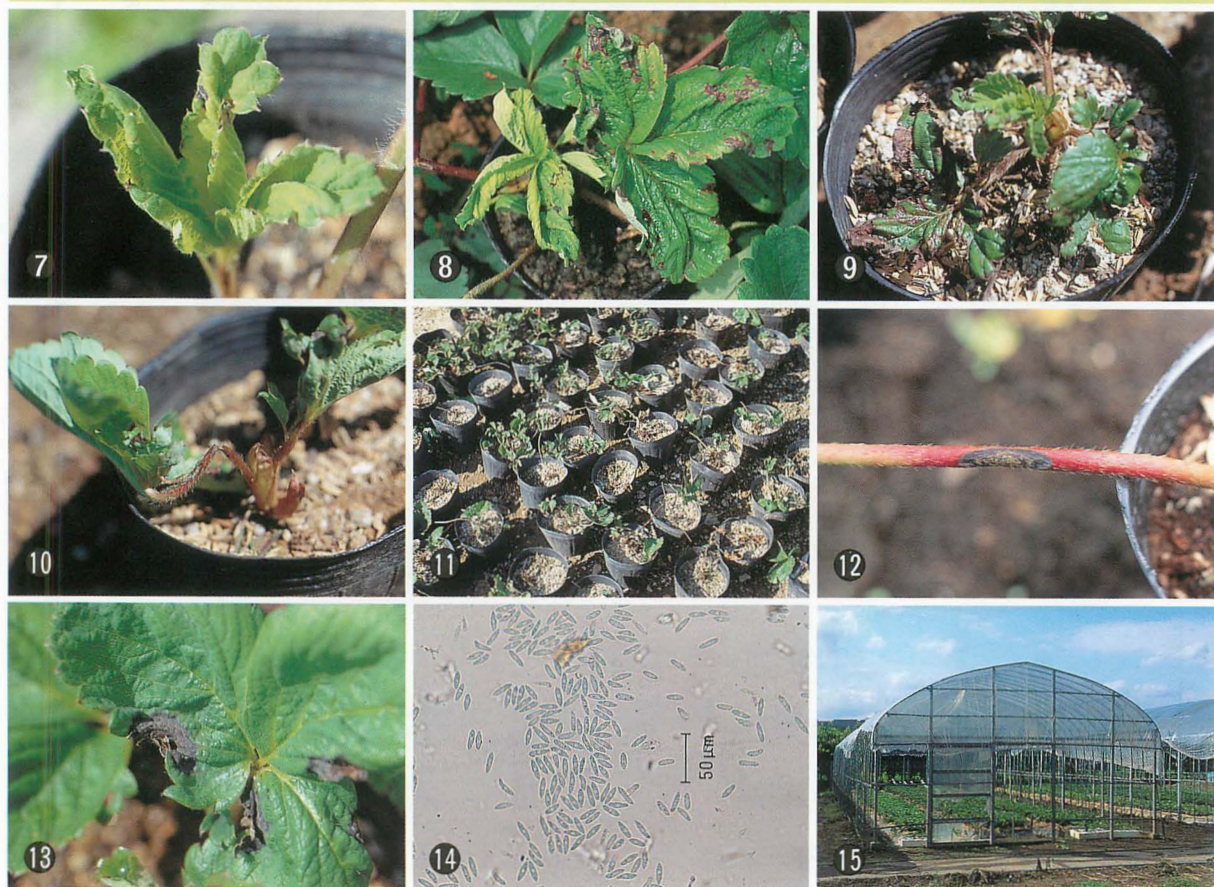
石川成寿氏原図(本文23ページ参照)



①簡易判別処理4日後に生じた誘導病斑
②簡易判別処理10日後、誘導病斑上に形成された分生子層
③簡易判別処理によって越冬葉(感染6か月後)に形成された分生子層
④, ⑤イチゴ輪斑病菌の誘導された分生子殻と淡黄色の胞子塊
⑥*C.acutatum*の誘導病斑上に形成された分生子層

*Colletotrichum acutatum*による イチゴ炭そ病の発生生態と防除

松尾和敏氏原図(本文29ページ参照)



⑦小葉の葉縁に発生した初期病斑
⑧小葉の中期病斑
⑨縮れて破れやすい小葉の古い病斑
⑩乾腐的で折れやすい葉柄の病斑
⑪甚発して衰弱枯死した子苗
⑫ランナーの病斑と鮭肉色の胞子堆
⑬多湿時に形成された小葉病斑上の鮭肉色の胞子堆
⑭本病原菌(*Colletotrichum acutatum*)の分生子
⑮防除効果が高い雨よけ育苗

連載口絵 花の病害虫 (18) ベゴニア



◀ベゴニア・エラチオールの栽培状況



▲木立ベゴニアの栽培状況



▲斑点細菌病の初期病徴



▲斑点細菌病の末期病徴



▲葉の裏面から見た斑点細菌病の病徴



木立ベゴニアに発生した茎腐病▶



▲茎腐病の拡大



▲苗に発生したさび病



▲さび病の病徴(左：表側、右：裏側)